

「平川いきいきサポート」生活支援サービスについて

～移動を含めた日常生活全般の地域支え合いの仕組み～

袖ヶ浦市役所企画財政部企画課

1. 取り組みの概要

本市の内陸部に位置する平川地区では、NPO 法人たけのこを母体に地域住民有志の方々が主体となり、高齢者を中心とした日常生活において援助を必要としている方々に対して、平成 25 年 11 月から有償ボランティアによる支援活動「平川いきいきサポート」を行っています。これまで市が実施してまいりました、移動手段の確保といった「外出支援」だけでなく、掃除のお手伝い、庭木の手入れといった「家事支援」や、話し相手や見守りといった「ふれあい支援」など、高齢者や一人暮らしの方の日常生活全般を支える生活支援サービスに取り組んでいます。「平川いきいきサポート」は、地域の課題を共助の精神により市と協働で解決しようとするものであり、市ではこの取り組みに対して支援しています。

2. 取り組みの背景

2.1 これまで実施してきた交通空白地域対策

市において、循環バス「ガウラ号」やデマンド型乗合タクシーと様々な仕組みを実施しましたが、いずれも利用者ニーズへの対応や事業採算性の問題から運行の継続は困難でした。

これまで実施してきた交通空白地域対策の実績

○利用者数	循環バス 12人/日	デマンド型乗合タクシー 6人/日
○事業収支率	循環バス 3.1%	デマンド型乗合タクシー 4.7%

利用は少ないものの、利用者の9割以上が高齢者であり、買い物や通院など日常生活に必要な移動手段であった。

◆市が画一的に行う施策では交通空白地域の課題を解決することは難しい

市（行政）が行う施策では、多種様々なニーズに対応していくことは、不可能である

◆地域に根ざした仕組みづくり

地域住民のニーズに合った交通サービスを適切に提供し、持続させていくことが重要であり、その持続に向けて地域と自治体が協働しつつ、新たな仕組みを導入する

2.2 「共助社会」に向けた世論の高まり

■ 少子・高齢化の進展

高齢化率は年々上昇しており、今後、日常生活に対する支援が必要となる高齢者が増加することが予測されます。

■ 地域コミュニティの弱体化

核家族化、少子高齢化などにより地域の課題解決力が弱体化しています。

■ 助け合いの意識の高まり

東日本大震災を契機に、地域での助け合いの意識が高まっています。

○困っている世帯に何らかの手助けをしたい高齢者 約80%

⇒ 実際に手助けをしている高齢者 30%未満

<出典>内閣府・高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査（平成21年）

2.3 地域支え合い（共助）による地域住民が主体となった取り組み

これまで市が取り組んできた交通空白地域対策から見てきたことは、利用者の大半は高齢者の方であり、主に高齢者の買い物や通院等の日常生活に必要な移動手段として活用されていました。

今後は、これまでの移動手段確保といった外出支援のみならず、掃除の手伝い、庭木の手入れといった「家事支援」や、話し相手や見守りといった「ふれあい支援」など、高齢者や一人暮らしの方の日常生活全般を支援していく、公的制度では対応できないニーズに応える地域内における支え合いの仕組みを地域主体で導入することが期待されます。

<地域支え合い（共助）の仕組み>

介護保険など公的制度の対象とならない人

- ・一時的なケガ・病気により日常家事が困難な高齢者等
- ・足腰が弱ってきた高齢者

など



介護保険の適用とならないサービス

- ・庭の草むしり
- ・障子の張り替え
- ・窓ふき
- ・電球交換

など



公的制度では対応できないニーズに応える
地域支え合いの仕組み

3. 平川いきいきサポートについて

3.1 取り組みの経緯

市によるデマンド型乗合タクシー「平川おでかけタクシー」実証運行が平成 25 年 3 月で終了することを受けて、地域住民有志により平川地区に必要な移動手段を確保したいとの気運が盛り上がりました。

平成 25 年 1 月、「特定非営利活動法人たけのこ」を母体として、地区民生児童委員、地区住民会議など多種多様な住民有志の参加により、「平川いきいきサポート準備会」が発足され、市職員も加わり、実施に向けた検討を進めました。

その結果、平成 25 年 11 月に市と事業実施に関する協定を締結し、3 年間の実証事業として「平川いきいきサポート」が始まり、現在に至るまで活動を継続しています。

3.2 取り組みの概要

高齢者をはじめとする援助を必要としている方の日常生活での手助けをサポートスタッフ（有償ボランティア）が行います。

外出支援に伴う送迎については、道路運送法上の登録、許可を要しない仕組みとするため、無償（燃料代等実費のみ徴収）にて実施しています。

会の運営は会員の会費、地域の協賛金、寄付等で賄い、経費の赤字分を市が補助金で支援する仕組みとなっています。

表 1 事業主体と市の役割

事業主体の 役割	地域支え合い創出に向けた地域での合意形成、運営資金の確保、地域住民への理解と賛同推進、活動参加ボランティアの掘り起し
市の役割	運営に対する支援（活動車両の確保、資金的援助） 活動の周知、広報（市の媒体を使った広報事務） 関係機関との連絡調整 他

表2 事業概要

事業主体	<ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人たけのこ 理事長 竹元 兼彦 ・平川いきいきサポート事業部 ボランティアスタッフ 現在17名
生活支援サービスの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外出支援（散歩、通院、買い物 等） ・家事支援（日常的な掃除、整理整頓、電球交換、草むしり 等） ・ふれあい支援（高齢者の話し相手や見守り 等） ・ふれあい交流会（様々な催しによる交流） ・その他
サービス提供区域	<ul style="list-style-type: none"> ・平川いきいきサポート生活支援サービスの対象区域は、5 ページ別表1に掲げる各地域とする。 ・なお、外出支援については、5 ページ別表1に掲げる各地域と別表2に掲げる目的地間とする。
サービス提供日及び提供時間等	<ul style="list-style-type: none"> ・火曜日、水曜日、金曜日の午前9時から午後4時まで。（ただし、祝日、年末年始は除く） ・サービスを利用する場合は、電話による事前予約制とする。 ・ふれあい交流会については、会員に個別案内のうえ、定期的を開催する。
サービスを利用できる方	<ul style="list-style-type: none"> ・平川地区にお住まいで日常生活の援助を必要としている高齢者などで、あらかじめ利用会員としての登録を行い、会費を納めている方
会費の額	<ul style="list-style-type: none"> ・利用会員 1ヶ月あたり 1,000円/年 ・賛助会員 個人 1口 1,000円/年 団体 1口 10,000円/年
サービス利用料金	<ul style="list-style-type: none"> ・外出支援以外の利用料金は、はじめの1時間を700円とし、1時間を超えた場合は、30分ごとに400円を加算する。 ・車両を使った外出支援の利用料金は、運行に要した燃料代等実費相当額とする。 ・交流会、その他サービスについては、別途料金を定める。

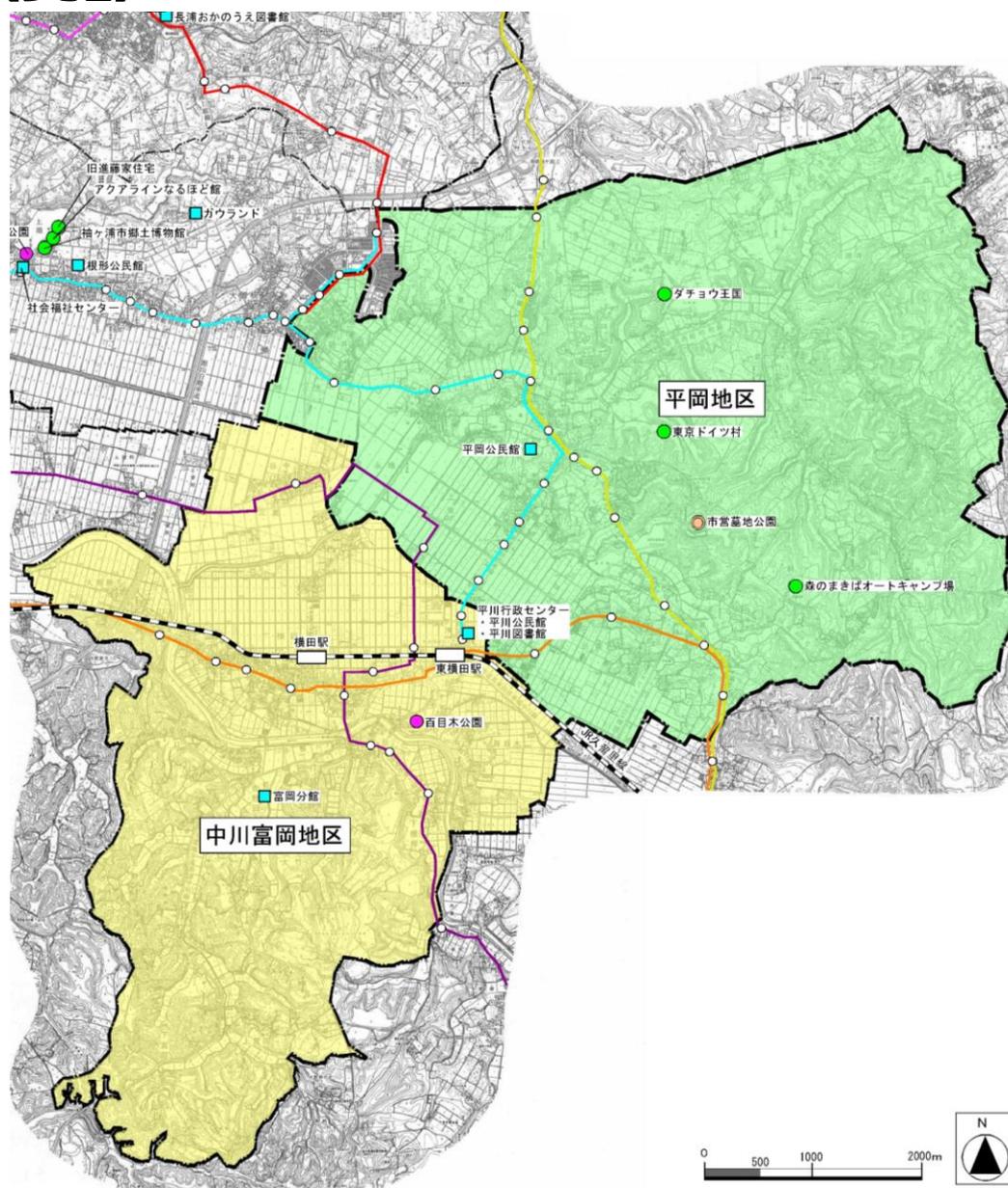
別表1

地区名	字名
平岡	永地、下泉、高谷、三箇、川原井、林、野里、上泉、永吉、岩井、三箇錯綜
中川富岡	百目木、横田、大鳥居、下根岸、阿部、堂谷、打越、大竹、滝の口、吉野田、玉野 上宮田、下宮田、三黒、谷中、真里錯綜、戸国飛地、百目木錯綜、下内橋錯綜、 百目木飛地

別表2

- ①別表1に掲げる区域内の商店、病院、金融機関、公共施設、最寄りの公共交通機関
 ②別表1に掲げる区域以外の病院、公共施設
 但し、利用者の実情等により必要と認めただけの場合に限る

【参考図】



3.3 事業の状況

現在、スタッフは17名、各役割を分担して従事し、利用者会員は43名となっています。

1日あたりの利用者が開始当初に比べ倍増しており、利用者が利用しやすくするために、予約時間について当初計画していた時間よりも細かく対応しています。また、パソコンによる予約システムを作成し、予約事務の効率化を図っています。

さらに、利用者にも乗車の際、自宅の外でお待ちいただくなどお願いし、時間短縮を図っています。

これらの取組みにより、利用が増加しています。その反面、午前中など利用が多い日は予約時間どおりに対応できない場合も生じており、今後、対策について検討していきます。

3.4 課題と今後について

これまでの取組みにより、以下に示す課題が明らかになりました。課題別の整理と対策を行い、地域での合意形成を高め、平成28年度の本格運行へ繋げていきます。

また、これまでの活動により、地域の方々の事業に対する理解の高まりを受け、更に多くの皆様方に理解を得るために、実証事業を確実に運営していきます。

○課題

- ・ 外出支援について予約時間どおりに対応できない場合がある
- ・ 現行スタッフは70歳代前後が主力、事業継続には若い力が必要
- ・ 家事支援は除草作業等、重労働が伴うため、少数のスタッフしか対応できない
- ・ 外出支援については、道路運送法の登録・許可を要さないスタイルとしており利用料金が徴収できないこと、また、家事支援については、現状利用者数が少ないことから採算面で自立は厳しい状況

4. 終わりに

これまで交通空白地域対策として、市が9年半に渡り循環バスやデマンド型乗合タクシーの運行を行ってきたものの、いずれの利用も少なかったことから運行維持のための行政負担が増大し、この方式では将来に渡り持続可能なものと言えないことから、難しい判断ではありましたが運行を終了したものであります。

しかしながら、利用は少ないながらも、利用される高齢者の方々の日常生活の移動手段として、一定程度活用されていたことから、力になりたいという地域の方々と一緒に幾度となく協議を重ねた中で、地域のニーズに対応するために生まれた仕組みが「平川いきいきサポート」であり、1つの参考としていただければ幸いと存じます。

<参考資料>

活動報告

地域支え合い推進実証事業「平川いきいきサポート」

◆これまでの活動経過について（抜粋）

- 平成25年 1月 平岡地区に拠点をおく「NPO法人たけのこ」を母体として民生児童委員や住民会議の有志8名を中心に、平川いきいきサポート準備会を発足し、袖ヶ浦市職員も加わり、実施に向けた検討を進める
- 平成25年 2月 関東運輸局千葉運輸支局に対し事前協議
- 平成25年 4月 中富・平岡各自治連絡会に対し事業概要説明
- 平成25年 7月 袖ヶ浦市地域公共交通活性化協議会に事業概要を報告
- 平成25年 8月 提供会員11名が国土交通省認定運転者講習会を受講
- 平成25年 9月 中富・平岡各地区敬老会にて事業説明を実施
- 平成25年10月 埼玉県上尾市尾山台 生活支援サービス「助け合い友の会」を視察
地域住民に対し、地域支え合い「平川いきいきサポート」事業開始を周知
- 平成25年11月 袖ヶ浦市と「平川地区地域支え合い推進実証事業」として協定締結
袖ヶ浦市より地域支え合い推進実証事業の活動車両の貸与及び補助金の交付
「平川いきいきサポート」事業開始式を開催、3年間の実証事業としてスタート
- 平成26年 4月 袖ヶ浦市より地域支え合い推進実証事業の活動車両の貸与及び補助金の交付
- 平成26年11月 平川いきいきサポート1周年記念報告会を開催
- 平成27年 4月 袖ヶ浦市より地域支え合い推進実証事業の活動車両の貸与及び補助金の交付
現在、3年目の活動を実施中

◆活動組織の概要

団体名：特定非営利活動法人たけのこ「平川いきいきサポート」

活動エリア：中富・平岡地区

会員数：利用会員（支援を受ける方） 43名

提供会員（支援をする方） 17名

◆これまでの利用実績

【平成25年度】

期 間：平成25年11月22日～平成26年3月31日

活動日数：50日

利用者数：486人（1日あたり9.7人）

会 員 数：利用会員（支援を受ける方）37名 提供会員（支援をする方）16名

【平成26年度】

期 間：平成26年4月1日～平成27年3月31日

活動日数：149日

利用者数：1,922人（1日あたり12.9人）

会 員 数：利用会員（支援を受ける方）39名 提供会員（支援をする方）18名

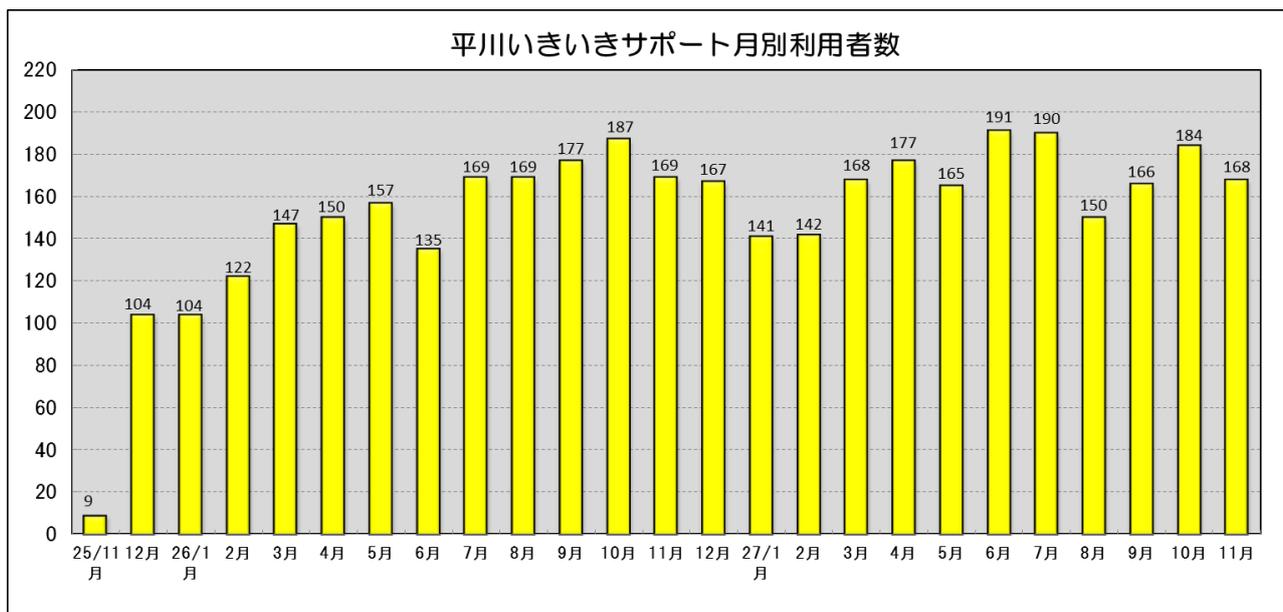
【平成27年度】

期 間：平成27年4月1日～平成27年11月30日【途中集計】

活動日数：98日

利用者数：1,391人（1日あたり14.2人）

会 員 数：利用会員（支援を受ける方）43名 提供会員（支援をする方）17名



◆主な家事支援の内容

庭の手入れ（剪定、芝張等）

除草作業（草刈）

買い物代行

蛍光灯取替・補修

障子貼り

手すり取付け

火災報知器取付け



地域支え合い実証事業「平川いきいきサポート」活動の様子

外出支援



家事支援



庭木剪定の様子

ふれあい支援



いきいき交流会の様子

地域支え合い実証事業「平川いきいきサポート」事業成果と課題等について

事業の成果

- 外出支援の行き先は、病院、商店、行政機関で全体の 8 割以上を占め、高齢者の生活に必要な移動手段となっている。
- ふれあい交流会を定期的を開催することで、高齢者の外出機会の創出や生活意欲の向上に寄与している。
- 高齢者の日常生活全般にわたる幅広い生活支援の取り組みにより、高齢者の大きな支えとなっている。
- 利用は増えてきており、活動は徐々に地域に定着してきている。
- 地域と行政の協働により、地域が抱える課題解決の一助となっている。

事業の課題

- 利用会員、提供会員の固定化。
- 利用回数の増加に伴い、希望する日時に対応できないこともある。
- 事業の周知、認知度向上。
- 事業主体であるNPO自体への地域の理解は乏しい。
- 提供会員の高齢化、継続のための後継者の確保。

利用会員の声から

「外出を手助けしてもらって、大変、感謝している。」

「デマンド型乗合タクシーが廃止になって困っていたが、平川いきいきサポートの誕生を嬉しく思っている。」

「通院や買い物など、高齢者にとっては便利に使わせていただいている。」

「支援してくれる方が地域の顔見知りで安心して利用できる。」

「ふれあい交流会で仲間と過ごすことで、健康で元気になった。」

提供会員の声から

「平川いきいきサポートにボランティアとして携わることで、自身の社会貢献、生きがいとなっている。」

「平川いきいきサポートの活動を通じて、感謝されることの喜びを知り、また、車の中で人生経験豊かな利用者のお話を伺え、この活動に参加して本当に良かった。」

今後の事業の取組みについて

1 事業の継続

2年半に渡る地域との協働による実証事業の状況を踏まえ、当該事業を継続していくこととする。

◆実証事業に基づく検証

- ①外出支援に限らず、高齢者の生活全般における生活支援を行うことで、生活全般における課題解決の一助として期待できる。
- ②ふれあい交流会は高齢者の外出機会の創出により、生きがいと社会参加を促進し、家に閉じこもりがちな高齢者のケアができる。
- ③地域の高齢化率は30%を超えており、今後も外出支援や家事支援などの需要は、増加することが見込まれる。
平川いきいきサポートの取組みは、高齢者のニーズに corres するものであり、また、高齢者の家族の負担軽減にもつながるものである。

以上のことから、平川いきいきサポートは高齢化社会に対応していくために、必要不可欠な事業であることから、引き続き市として支援しながら継続していく。

2 事業継続の留意点

- ①より多くの方の事業への参加（利用会員、提供会員の増加）
- ②事業に対する地域支援・理解の拡大
- ③事業の安全確保（活動による事故防止対策）

地域に根ざした、持続可能な仕組みとしての事業確立を目指していく。